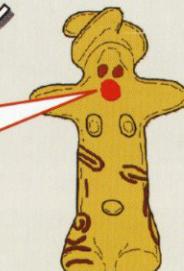


発掘現場・出土品整理 インフォメーション

ぼくは川尻中村遺跡(相模原市)の はちまき土偶はっちです。今回は特別に1月16日開催の公開セミナーで取り上げる神奈川・東京・埼玉の遺跡を紹介します。



六ノ域遺跡 (ろくのいきいせき)

(所在地)	平塚市	(時代)	縄文時代、奈良・平安時代、中・近世	(調査期間)	2000年～2005年
-------	-----	------	-------------------	--------	-------------

平塚市六ノ域遺跡はJR東海道線平塚駅の北約1kmのところに位置し、相模川西岸の砂丘上に立地しています。湘南新道関連遺跡の中の1つで、道路建設工事に先立ち財団法人かながわ考古学財団が調査しました。場所は相模国府域の北東側にあたり、調査の結果、平安時代の連房式鍛冶工房と呼ばれる施設が発見されました。これは長さ13m、幅5.7mほどの大きな長方形の浅い掘り込みの中に、対になる鍛冶炉が並べて設置してありました。規模が大きく、近くに国庁(役所)関連の建物跡が見つかっていることから、役所付属の工房跡と考えられています。同様の遺構は近くの坪ノ内遺跡でも見つかっています。



連房式鍛冶工房(2004年)

多摩ニュータウンNo.248遺跡 (たまにゅーたうんなんばー248いせき)

(所在地)	東京都町田市	(時代)	縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世	(調査期間)	1990年
-------	--------	------	----------------------	--------	-------

多摩ニュータウンNo.248遺跡は京王線多摩境駅北約500m付近に位置します。

多摩ニュータウン建設に先立ち東京都埋蔵文化財センターが調査を実施しました。多摩ニュータウンNo.248遺跡では5.0×4.7mの竪穴建物の床に鉄を加熱し鍛えるための鍛冶炉が発見されました。鋼材料から鉄器を作り出す鍛冶工房と考えられ、馬具(鎧)が出土地しました。

また、多摩ニュータウンNo.390遺跡は大形羽口(送風管)のほかに炉壁や鉄滓が検出され、製鉄関係の遺跡と考えられています。本地域の鉄器生産は10世紀(平安時代)に盛んになります。



馬具(鎧)が出土した鍛冶工房炉(1990年)

大山遺跡 (おおやまいせき)

(所在地)	埼玉県伊奈町	(時代)	奈良・平安時代	(調査期間)	2009年4月～2010年11月 (第12次)
-------	--------	------	---------	--------	----------------------------

大山遺跡は埼玉新都市交通丸山駅西方約0.5kmにあり、綾瀬川と原市沼川に挟まれた標高14mの台地上に立地しています。県立がんセンター施設整備に先立ち埼玉県埋蔵文化財調査事業団が調査を実施しています。本遺跡は関東地方でも有数の製鉄遺跡で、これまでに奈良時代の19基の製鉄炉が調査されています。第12次調査では9基の製鉄炉を調査し、遺跡全体で製鉄炉は28基になりました。このほか連房式鍛冶工房や谷部に広がる粘土採掘坑・廃滓場等が発見され、鉄作りの様子が更に鮮明になってきました。

古代の鉄生産は、堅形炉と呼ばれる円筒形の炉を造り、原料の砂鉄を還元する方法で行われます。炉の規模は直径70cm前後で高さは推定2mです。炉の背面に踏み輶(ふみこし)を設置し炉内に風を送る仕組みで、炉の燃焼を助け、温度を上げます。

遺跡は武藏国足立郡稻直郷にあたり、鉄づくりに最適な起伏のある地形です。森では炭を焼き、川では砂鉄を探り、谷からは粘土を採掘し、台地の斜面に製鉄炉を造っています。1300年前の足立郡の工房で働く人たちの息吹が伝わってきます。



堅形炉(製鉄炉)(2009年10月)

こんなものでたよ

最近の調査で出土した注目される遺物の紹介コーナーです。

今回は平塚市六ノ域遺跡から出土した奈良・平安時代の遺物です。

椀形滓

直径約15cm、厚さ約7cmの鉄の塊。

底がお椀の形をしていることからこの名があります。鍛冶(鉄加工)工房の炉は円形で中央がくぼんでいることが多い、その底面に鉄滓(鉄くず)がたまるところこのような形になることがあります。これが発見されると近くで鍛冶が行われていた傍証となります。

写真の遺物は六ノ域遺跡の連房式鍛冶工房跡から出土しました。実物は平塚市博物館で開催中のかながわ考古学財団地域速報展で展示中です。(裏面行事案内参照)



椀形滓(平塚市六ノ域遺跡出土)